

就職活動支援のイノベーション

— 三位一体型キャリア支援ウェブステーション (jwest) の事例 —

柳下 正和・草野 素雄・新井 浅浩
栗田るみ子・木内 正光

要 旨

本稿では、まず、事例として城西大学経営学部から学生の就職状況の現状と就職活動支援の問題点を明らかにした。次に、就職活動支援を行うためのツールとしての jwest の開発・運用について報告した。jwest は、学生が自己の置かれた状況をリアルタイムで記録し、教員あるいは就職課の職員が学生の大学での活動や就職活動の状況に関する情報を共有することで、学生が円滑な就職活動を行うことを支援するためのツールとして開発された。そして、他大学の取り組みと比較してどのような特徴があるのかを検証した。最後に、jwest のシステムとプロジェクトの課題として、第 1 に、学生たちが記録した就職活動の行動履歴はデータとして蓄積が期待でき、それらのデータの傾向を後輩の学生にフィードバックすることも可能になるかもしれないこと、第 2 に、平成 23 年度には、経営学部での運用実績をもとに城西大学の全学部で jwest の利用を広げていく予定であり、学部ごとに異なる就職支援の方法や内容を踏まえ、学内の運用体制をいかにして整備していくかがあげられる。

キーワード：就職活動支援、リアルタイム、三位一体型キャリア支援ウェブステーション (jwest)、(就職活動状況の) 可視化、行動履歴

目 次

はじめに

- I 城西大学経営学部における学生の就職活動支援の現状と問題点
 - 1 就職状況
 - 2 就職活動支援の現状
 - 3 就職活動支援の問題点と情報の共有化
 - II jwest の開発と活用
 - 1 jwest の開発
 - 2 jwest の活用状況
 - 3 他大学の取り組みとの比較
- むすびにかえて

はじめに

厚生労働省は「平成22年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査」(厚生労働省ホームページ, <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r985200000weq7.html>, 2011年1月7日参照)を公表した。その報道によれば,平成23年3月の大学卒業予定者の内定率は,57.6%と過去最低水準であった(平成22年10月1日現在)。リーマンショックに端を発した景気の後退から企業の業績は回復しつつあるが,雇用をめぐる情勢は芳しくはない。このような情勢は,大学生の就職活動にも反映されてきている。

大学生にとって就職活動は人生の節目である。しかし,現実には「卒業」=「就職」,「学生生活の終了」=「社会人としての第一歩」という図式が成り立つのを妨げるのが就職活動であり,本人の努力と誠意だけでは変えることのできない構造やどうしようもない不条理がそこに存在する(安田,1999,13ページ)。また,採用のしくみや基準は,職種により,業種により,企業により,年度により,企業により,地域により異なり就職活動に標準はない(安田,1999,14ページ)。とはいっても,「大半の学生の就職行動におおまかに共通したパターンを見出していくことは不可能ではない」(安田,1999,15ページ)ことから共通して経験する就職行動のプロセスは,就職活動の流れという形で把握されるようになってきている。

多くの学生が「就職活動の流れ」に関する情報をインターネットや大学の就職課が行うガイダンスなどから獲得し,それに沿って就職活動を行っていく。しかしながら,学生一人一人の就職活動は千差万別である。就職活動の時期や内容,内定までのプロセスはもちろん異なってくる。教員や就職課の職員から見た問題点として,就職活動に消極的な学生に対して「いかにして就職活動に目を向けさせるか」ということがあげられる。

この問題点を解決するためには,特に,就職活動を始めた学生の置かれている様子がリアルタイムで正確に把握できることが重要である。それが正確に把握できなければ,就職活動に消極的な学生に対しても有効なアドバイスやコーチングなどの働きかけが行えないということになる。大学としては,就職活動に消極的な学生が就職活動を開始(再開)し,その数が減少すれば,その結果として非就職者のうちの「就職せず」,「アルバイト」,「家事手伝い」などに該当する学生数を低減させることが可能になるかもしれない。それにより,実質的に高い就職率を達成することが期待できるかもしれない。

本稿では,まず,事例として城西大学経営学部のデータから学生の就職状況の現状や城西大学経営学部における就職活動支援の問題点を明らかにする。次に,就職活動支援を行うためのツールとしての三位一体型キャリア支援ウェブステーション(以下,jwest⁽¹⁾)の開発・運用につい

て報告し、他大学の取り組みと比較してどのような特徴があるのかを検証していく。最後に、jwest というツールを今後の就職活動支援にどのように活かしていくかの課題を探る。

I 城西大学経営学部における学生の就職活動支援の現状と問題点

1 就職状況

約 8,000 人の学生がいる城西大学・城西短期大学において、経営学部は、2,200 人程の学生を抱え、城西大学の中でも最大の学部である。1 学年、600 名前後の学生が学部にも所属している。

平成 21 年度の経営学部の学生の主な就職先であるが、第 1 位が小売業で 15.7% の割合を占め、次いで、卸売業が 11.5% を占めている。第 3 位が製造業で 9.9% を占めている。上位 2 位までが販売関係の業態が占め、全体の 3 割程度を占めているという特徴がある (図 1)。

平成 20 年度の経営学部の卒業生総数は 526 名であった。そのうち、就職希望者が 388 名、就職決定者が 386 名であり、就職率に関しては、99.5% という結果となっている。男女別に見てみると、男子学生は就職希望者が 329 名、就職決定者が 328 名であった。また、女子学生は、就職希望者が 59 名、就職決定者が 58 名であった。就職率は、男子が 99.7%、女子は 98.3% であった。参考までに、大学全体では、就職希望者が 1,181 名、就職決定者が 1,175 名で、就職率は 99.5% であった (表 1)。

経営学部全体では、非就職者は 164 名いたが、進学希望者あるいは大学卒業後に公務員・教員を受験するものが大半を占めている。しかし、「就職せず」、「アルバイト」、「家事手伝い」が合わせて 99 名おり、卒業生総数の 17.9% を占めている (全学では 11.9%)。学生、教員、就職課職員が三位一体となり (図 2)、「就職せず」、「アルバイト」、「家事手伝い」の割合をいかにして減らし、実質的な就職率の数字を増加させていくか、これこそが「三位一体型就職支援キャリアウエ

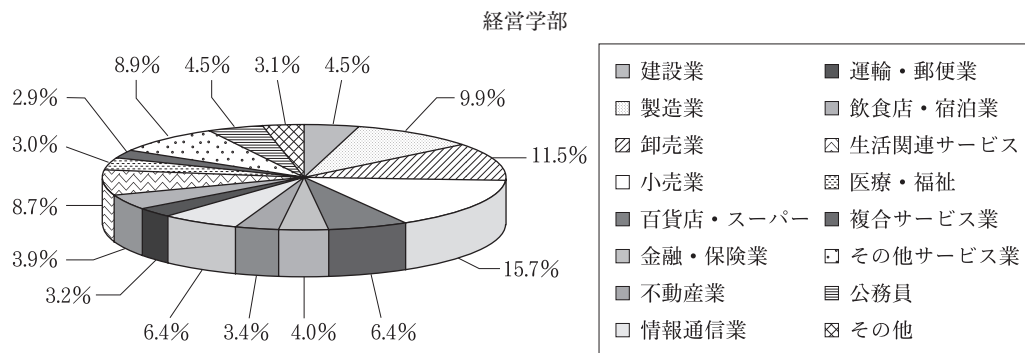


図 1 城西大学経営学部学生の就職先の内訳 (平成 21 年度)

出所) 城西大学就職課ホームページ (<http://www.josai.ac.jp/career/university/type.html>, 2011 年 1 月 7 日参照)

「ブステーションの開発と運用」プロジェクトの問題意識のスタートであった。なお、「三位一体型キャリアウェブステーションの開発・運用」は、平成21年度文部科学省大学改革推進事業GPテーマBのプロジェクトとして採択された。

表1 経営学部と大学全体の就職状況（平成20年度）

学 部		経 営 学 部			大 学 計	
学 科		マ ネ ジ メ ン ト 総 合				
男	女	男	女	小 計	計	女子内数
卒 業 者 総 数		462	90	552	1,643	437
就 職 希 望 者		329	59	388	1,181	329
就 職 決 定 者		328	58	386	1,175	325
就 職 未 定 者		1	1	2	6	4
就 職 率		99.7%	98.3%	99.5%	99.5%	98.8%
非 就 職 者 の 内 訳	就 職 せ ず	50	10	60	127	14
	ア ル バ イ ト	33	4	37	65	6
	家 事 手 伝 い	2	0	2	5	1
	公 務 員 ・ 教 員 受 験 予 定	13	2	15	34	4
	国 家 資 格 取 得 後 就 職	1	0	1	52	20
	臨 時 採 用 講 師 ・ 研 修 生	0	0	0	4	1
	留 学 ・ 専 門 学 校	12	2	14	29	3
	帰 国 (留 学 生)	13	6	19	31	8
	大 学 院 ・ 編 入	7	5	12	105	48
	研 究 生 ・ 科 目 等 履 修 生	2	2	4	10	3
計		133	31	164	462	108

出所) 城西大学就職課

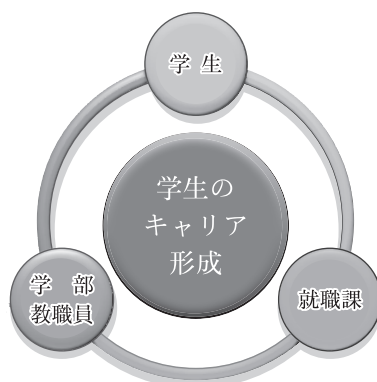


図2 三位一体型のイメージ

2 就職活動支援の現状

(1) キャリア形成に関する科目

経営学部には、独自の取り組みとして、努力目標を掲げ、それを達成することを目的としたミニマムスタンダードを実施している。ミニマムスタンダードは、経営学部の「読み・書き・そろばん」と位置づけられる「会計（簿記）」、「情報（コンピューター）」、「英語（TOEIC®）」を卒業までの4年間で達成を要する検定の最低限の（ミニマムな）目標をクリアすることを柱としている。具体的には、会計は「日商簿記または全経簿記3級合格」、「情報検定（J検）情報活用試験2級合格」、「TOEIC®、スコア400点以上」という努力目標を掲げている（平成22年度現在）。

キャリア形成に寄与することを目的として、経営学部のカリキュラムには「プロジェクト研究科目」、「キャリア形成」などの科目が用意されている。「プロジェクト研究科目」は、「まちづくり」、「インターンシップ」、「行政」、「女性」、「キャリア形成」をキーワードとした科目があり、学生は体験を通じて「能力開発」や「職業観」を養うことが可能となる。「まちづくり」は1年次から、それ以外は2年次からの配当科目となっており、卒業に必要な単位として2単位を取得することとなっている。「インターンシップ」に関しては、インターンシップⅠは2年次後期に、インターンシップⅡは3年次前期に配当され、就職活動の早期化に対応するように工夫されている。

(2) キャリア形成に関する行事

城西大学の特徴として1年次から4年次までの必修ゼミナール⁽²⁾を履修することになっている。キャリアガイダンスについては、2年次の基礎ゼミⅡと3年次の専門ゼミナールに、就職課の学部担当職員が前期と後期に時間を設け、「自己分析」や「職業・業界・企業研究」の方法や就職活動への心構えに関して、セミナーを実施している。

また、SPIや一般常識などの模擬テストを無料で受検できる機会を設けたり、エントリーシート の書き方、女子学生、公務員希望者やUターン就職希望者向けのなどのセミナーを開催したりしている。3年生が就職活動を始める頃には、4年生で進路が決定している学生による就職活動体験談を聞かせるイベントを開催、年が明けた2月には企業研究会を開催し学生が学内で企業の採用担当者と直接話せるような機会も設けている。

学生が就職活動を本格的に始めると、就職課の担当職員は、就職課に進路登録カードの提出を済ませており、職の斡旋が可能である学生に電話やメールで就職活動の状況を確認する。また、必要に応じて就職課にて学生の相談に乗る、あるいは学生にアドバイスを行う。

エクステンション・プログラムでは、希望する学生に有料であるが、高度の簿記やパソコンな

どの資格対策講座、就職活動の対策講座なども設けられている。前述の「キャリア形成」は、ミニマムスタンダードを達成した学生がより高度な資格・検定に挑戦するモチベーションを持つようエクステンション・プログラムとリンクし、その過程における努力を評価するような仕組みとなっている。

3 就職活動支援の問題点と情報の共有化

就職活動支援の問題点として、就職活動を始めた学生の置かれている様子が見えにくいということがあげられる。そのため、学生が就職活動において、エントリーから内定取得までのプロセスのどこの段階まで進んでいるか、何社くらいエントリーしているか、そもそも就職活動をしているのかが見えずに、有効なアドバイスやコーチングが行えないということになる。

採用時期が早まり、3年次の後期には、学生は就職活動を始める。就職活動を始める心構えのできている学生やそのための準備が十分できている学生はスムーズに就職活動を始めるが、心構えのできていない学生やそのための準備が全くできていない学生は活動の開始自体が遅れる。また、景気が後退する様相を呈している昨今、新卒者の内定率も下降している。こうしたことを受けて、就職活動が長期化する、または就職活動をしていても就職が決まらないだろうと最初からあきらめ、就職活動をしない学生も出てきている。

前述のように、就職課は電話や電子メールを利用し、学生の就職活動の状況（内定取得の有無を含む）を確認する。また、教員は自分の担当するゼミナールの学生の就職活動の状況については、ゼミナールの時間にコミュニケーションをとりつつ確認することも可能である。しかし、就職活動のスケジュールによってはゼミナールへの出席が困難になる学生も出てくる。就職活動の長期化するとこの点が顕著となってくるので、教員にとっては学生の状況をゼミナールの時間に確認することができなくなる。また、教員は学生がゼミナールに出席しても、該当の学生の就職活動の状況が分からない状態で学生とコミュニケーションを持とうとすると、コミュニケーションが成り立たなくなるばかりか、学生とのコミュニケーションから該当学生の就職活動状況に関する情報の獲得が阻害され、悪循環に陥るというリスクも発生する。

そこで、そうしたリスクを減らすために、学生の就職活動の状況が可視化でき、様子がわかることで有効なアドバイスやコーチングが可能となる。また、就職課職員とゼミナール担当教員の間で該当学生の情報の非対称性が存在すると、アドバイスやコーチングは、的はずれなものとなり、学生の就職活動のモチベーションそのものを下げてしまうかもしれない。学生の就職活動に関する情報の共有が簡単にできるようなシステムのニーズが生じるはずである。

また、学生にとっては、就職活動は人生の節目となる大きなイベントである。多数の学生が、大学入学までは、入試で多くの学校を受験する経験がないのが、就職活動では、数10社、多い

学生は100社近くの入社試験を受ける。インターネットで就職の情報を集めることが主流となっているが、あふれる情報の中で、自分にあった企業が見つけれずにいるとミスマッチが起こる可能性も高くなるばかりでなく、入社試験に落ち続けると就職活動への意欲そのものも低下するであろう。大学の就職課に来ている求人情報などの大学固有の情報にアクセスできれば、上記のような問題は緩和されるであろう。学生は就職課にまめに行くことができればよいのであるが、就職活動で大学へ行く時間が取れないといった制約が大きくなっている状況では、大学が持っている固有の情報にアクセスできるような利便性をもったシステムのニーズが生じるはずである。

II jwestの開発と活用

1 jwestの開発

(1) jwest開発の目的

周知のように、学生の就職を取り巻く環境は、日本経済の悪化により厳しいものになってきている。学生が必要とする就職活動に対する支援や指導をよりよい形でいかにして提供していくかが課題となっている。本学で培った学士力を社会で発揮する機会を保証することを目指して、就職課職員、学部教職員が連携して各学生の就職状況（就職活動状況）に関する情報を共有し、適切な指導・支援を行うためのツールとして、「三位一体型キャリアウェブステーション」の開発・運用をプロジェクトとして行うこととなった。

「三位一体型キャリアウェブステーション（jwest）」の開発の目的は、次の3点である。第1に、学生が自己の大学での学習状況や学生生活の振り返りを行うために、そのようなことを記録することを容易にすることである。自己の大学での学習状況や学生生活に関することを書きため、振り返りを行い、自己アピール文やエントリーシートの作成につなげる。第2に、現在、学生の就職活動は長期化の様相を呈している。なかなか就職先が決まらず、就職活動を行うモチベーションが低下し、就職活動を投げ出してしまう学生も少なくない。就職活動を投げ出してしまふ学生または就職を希望しているが就職活動を全く行わない学生のために、就職活動状況を就職課職員あるいはゼミナールの担当教員が把握し、学生に適切なアドバイスやコーチングを行うことで就職活動を再開させる。第3に、そもそも就職活動を効率的に行うための情報が不足している学生に、大学の就職課が独自に持っている情報を迅速に提供することである。

(2) jwestのシステム概要と特徴

上記の目的を達成するために、jwestはキャリア支援カルテ、メーリングシステム、ポータルサイトなどを備えた総合システムである。具体的には、「就職カルテ」、「学習カルテ」、「jwest

ホームページ」から構成されている（図3）。ログイン画面は、図4がPCのもの、図5が携帯電話のものである。以下では、「就職カルテ」、「学習カルテ」、「jwest ホームページ」のシステム概要と特徴について述べていく。



図3 jwest の構成

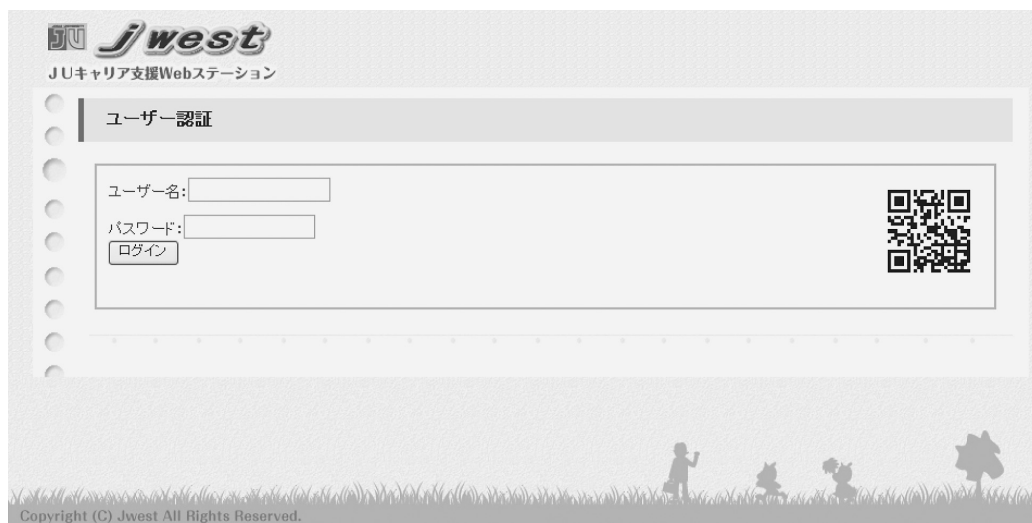


図4 jwest ログイン画面（PC）



図5 jwest ログイン画面（モバイル）

「就職カルテ」(図6)

「就職カルテ」はパソコンまたは携帯電話で入力を行う。学生は、希望する業種、職種、就職したい地域といった基本情報や就職活動状況を登録・編集することが可能である。就職活動状況に関しては、エントリーした会社ごとに就職活動の進捗状況が記録できる。1度に多くの会社にエントリーし、同時並行で就職活動を進める学生がいる。就職活動状況を記録し、履歴を残していくことは、結果が出なかった時、どのような点が不足していたかを反省する際の材料になるかもしれない。だが、記録をせずに先送りし、次々と就職活動を進めていくと、活動履歴をまとめようと考えても、整理がつかないものである。そこで、「思い立ったらすぐ入力」ということで、モバイル性の高い携帯電話からも入力ができるようにした。jwestの特徴の一つとして、携帯電話での入力を容易にするために、テキスト入力よりも「ドロップダウン」メニューを多用し、必要な項目を選ぶようにインターフェースを工夫した。

就職課担当職員や教員は、学生が入力した就職活動の過程や結果を確認することができる。jwestの目的は、リアルタイムで学生の就職活動状況を確認することを可能にすることである。就職カルテに入力されたデータは就職カルテに入力されたデータを逐次、閲覧することが可能である。就職課担当職員は学部すべての学生のデータを、また教員は担当のゼミナールの学生の

The screenshot shows the 'Jwest JUキャリア支援webステーション' interface. The user is logged in as '栗田 るみ子 MyPage'. The page title is '城西大学'. A navigation bar includes links for '学生一覧', '送信済メッセージ検索', 'パスワード変更', and 'JUキャリア支援ホームページ'. The main content area shows a sidebar with '戻る', '基本情報 (2010/07/14)', '学習カルテ (2010/07/17)', '進路決定先', '就活記録情報 (2010/07/14)', '免許・資格', and 'メッセージ作成'. The '就活記録情報' section displays a table of job application records.

会社名	最終更新日
さいたま市 消防	2010/07/14
埼玉県警	2010/07/14
東京消防庁	2010/07/14
警視庁	2010/07/14
サイサン	2010/07/14
セントラル警備保障	2010/07/14
ALSOK 総合警備保障	2010/07/14

At the bottom, there are links for 'Jwest JUキャリア支援ホームページ' and '城西大学へ'.

図6 就職カルテ (就活記録情報)

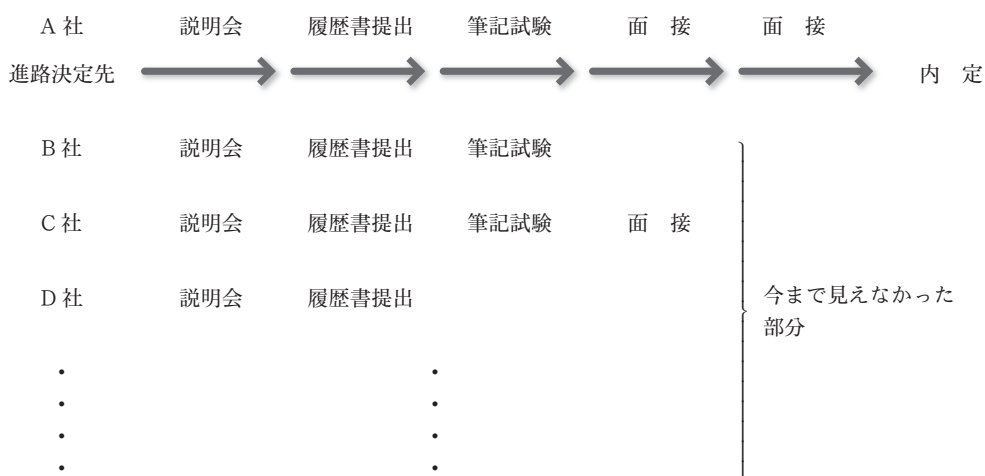


図7 就職活動状況の可視化（イメージ）

データが閲覧可能である。活動のプロセスが可視化されることで、より適切な形で学生へのフィードバックが可能となる。

図7は就職活動のプロセスの可視化のイメージである。システムが導入されるまでも、活動のプロセスに関しては、就職が決定した企業の内定獲得までの行動履歴は可視化されていた。就職カルテでは、従来では見えなかった学生が受験し、就職カルテに記録した企業すべての行動履歴が可視化され、チェックが可能である。

また、学生の状況を確認することに注意を促すために、学生が入力した結果は2週間に1度、ゼミ担当教員へはメールで送信される。

「学習カルテ」（図8）

「学習カルテ」は基本的に入力をパソコンで行う。学生は入学から卒業までの各学年の生活を主に記録していく。入力する内容は、主に所属したゼミやクラブ・サークル活動といった大学生活での状況である。前述したように、学生が自己の大学での学習状況や学生生活の振り返りを行うことが目的である。そのための情報を書き貯めることで、振り返りを行うきっかけとする。さらに、就職活動での自己アピールやエントリーシートの作成を容易にするための支援として、「高校までの自分史」や「自己PR」の項目も設け、就職課担当職員やゼミ担当教員が、学生の書いたものをチェックしたり、それに基づき、アドバイスを行ったりと、よりよい自己アピールやエントリーシートの文章を書くための指導にも利用可能である。

Jwest JUキャリア支援webステーション

戻る 学籍番号: ZM107

基本情報 (2010/07/14)

学習カルテ (2010/07/17) 面談票PDF出力

進路決定先

就活記録情報 (2010/07/14)

免状・資格

メッセージ作成

学習カルテ

学年	4
ゼミ1	経営学部マネジメント総合学科 荻林 俊英
ゼミ2	経営学部マネジメント総合学科 栗田 るみ子
ゼミ3	経営学部マネジメント総合学科 栗田 るみ子
ゼミ4	経営学部マネジメント総合学科 栗田 るみ子
ゼミ5	
ゼミ6	
入試区分	指定校
住居	[2010-03-08 15:22:35] 自宅 [2010-05-17 12:08:43] 自宅
通学手段	
通学時間	
健康状態	<input type="radio"/> 良い <input type="radio"/> 通えない
出身高校	[2010-03-08 15:22:35] 埼玉県立大宮工業高校 [2010-05-17 12:08:43] 埼玉県立大宮工業高校
高校までの自分史	
学内の親しい友人	[2010-03-08 15:22:35] 非常に多い [2010-05-17 12:08:43] 非常に多い
クラブ・サークル	[2010-03-08 15:22:35] なし [2010-05-17 12:08:43] なし

図8 学習カルテ

「jwest ホームページ」(図9)

現在の就職活動は、インターネットを通じて行われている。学生は「リクナビ」、「マイナビ」などのホームページに会員登録し、就職に関する情報を収集したり、企業へのエントリーを行ったりする。

「リクナビ」、「マイナビ」などのホームページで提供されている情報は、会員登録している全国の大学生が利用可能である。大学の就職課にくる求人票の情報は、学生が学校に来て、就職課へ行かない限りは見ることはできない。このような情報の中には、有益なものも数多くある。学生に大学にある就職情報の宝の山を利用してもらわない手はないだろうということで、ポータルサイト「jwest ホームページ」はこのような情報を提供する。

JU キャリア支援ホームページ

行事案内
Event information

求人案内
Career information

就職Q&A
Career Q&A

メッセージ
Message

伝言板
Message board

きめ細かな指導と充実のプログラムで
“理想の進路”をサポート

大学案内

経営学部

経済学部

現代政策学部

理学部

薬学部

短期大学案内

ビジネス総合学科

大学院案内

経済学研究所

最新情報

一覧を見る

[2010年11月12日] [三年生向け就職支援プログラムスケジュール](#)

[2010年10月28日] [進路登録カードについて](#)

[2010年10月21日] [就職活動情報](#)

[2010年07月30日] [jwest \(JUキャリア支援webステーション\) のQ&A](#)

[2010年07月08日] [お知らせ](#)

[2010年04月09日] [公務員希望者へ](#)

インターネット | 保護モード: 有効

100%

図9 jwest ホームページ (トップページ)

2 jwest の活用状況

2010年6月より本格的に稼働を始めた jwest であるが、まず、学生にシステムの使用法を理解してもらうために、ゼミ担当教員や jwest 補佐員の協力のもと、システムの使用法についてゼミナールの時間に説明を行う機会を設けた。また、システムの使用法についての質問やログインの仕方などについては、プロジェクト推進ために設置した jwest 事務室に常駐している jwest 補佐員がサポートに当たった。

7月には、パソコンと携帯電話から、1年生から3年生までのほとんどの学生はシステムにログインし、「学習カルテ」にデータを入力、「就職カルテ」の基本情報のメール入力欄にメールアドレスの入力を済ませ、システムを利用して学生への連絡が可能となった。

4年生については、システムの稼働が6月にずれ込んでしまったため、就職活動がすでに始まった状態から入力を指導がスタートした。すでに、内定が出ていた学生に関しては「就職カルテ」に内定までの経緯を入力するように指導を行った。就職活動を継続している学生に関しては、大

学へ来る時間をとることが難しい。そこで、そういった学生には、jwest 事務室へ行ってもらい、jwest 補佐員のサポートのもとで「学習カルテ」、「就職カルテ」にデータを入力してもらった。

3 他大学の取り組みとの比較

ここでは、キャリア教育や就職活動の支援に関するいくつかの取り組み・事例との比較から、jwest がどのように位置づけられるかを明らかにしたい。

岡田・大島・田添（1996）では、私立大学の就職指導に関する一般的な問題に触れ、摂南大学の事例を述べている。就職指導の中で使われる情報活用の問題点が分析されており、具体的には、適性検査の結果と同一項目による自己評価の間には相関性が認め難いことが検証され、適性検査の一部である性格特徴の各項目の評価と就職先の業種、企業規模、進路決定時期、および就職後の離職関係状況との関係が分析されている。また、課題として、適性検査の情報に基づいて学生に自己の資質を正確に認識させることの必要性、適性検査における性格特徴のどの項目がどの業種の採用に影響するかを把握し、就職指導に役立てることをあげている。

森本・畑（2004）では、就職活動支援を目的とした WBT 型学習支援システムの開発にいたる背景および形成的評価について報告している。このシステムは、就職試験対策を支援するための学習機能を有し、学生の学習履歴の管理、個々の学習状況の把握が可能である。また、就職活動に関する情報提供や就職活動の履歴管理を行うことも可能となっていると紹介されている。eラーニングの特徴である「いつでも、どこでも」学習できる環境を提供でき、就職指導部門からの学生向けの情報を随時提示する機能や他の就職情報サイトへのリンクを貼ることでポータルサイトのシステムも実現できた、とまとめられている。

川瀬・辻・竹野・田中（2006）によれば、宮崎公立大学では、学生の進路模索への動機づけ、進路選択能力・進路選択に対する自信を高めさせることを目的とした取り組みを行っている。主体的な進路選択や決定に結び付けるために 2005 年より「キャリア設計」という講義の中で「①適性検査による自己理解、②社会人講師の講話による職業理解、③グループワークによる進路模索」（川瀬他、64 ページ）を実施している。この講義で行われたアンケート調査から、自己効力感と結果期待の変化が検討され、学生全体の底上げに効果があったことが示されている。

本庄（2009）では、和歌山大学経済学部「スチューデントリンク」の取り組みが紹介されている。スチューデントリンクは「キャリア教育を含め、就職支援を強化する」目的で発足し、活動している。この学生主体の団体の活動は、学部 4 年生が、同窓会と連携をとりながら、3 年生に早い時期に主体的に就職活動をする意識を持ってもらうために、就職活動をサポートすることである。

以上の研究から、学生に自己の資質を正確に認識させるために、適性検査の情報を利用し就職

指導に役立てること、キャリア教育を通じて、主体的に進路選択や決定を行うことのできる自信を学生につけさせること、SPIなどの対策にeラーニングシステムを用い、学生の学習履歴の管理、個々の学習状況の把握を可能としたもの、就職支援を強化することを目的として人的なバックアップ体制の構築などの取り組みが行われていることがわかる。

さて、jwestは上記の研究と比較してどのような特徴をもっているのだろうか。インターネットを利用する点ではeラーニングシステムと共通している点がある。しかし、eラーニングシステムと異なる点は、学習履歴ではなく学生の行動履歴の確認が可能となっていることである。

前述のように、学習カルテでは、自己の大学での学習状況や学生生活を記録していく。各学年でゼミを担当した教員に学生のおおよその様子が引き継がれていく。また、学生自身が学生生活の振り返りを行い、自己アピールやエントリーシートの文章を書くための材料をためていく。教員も学習カルテの内容を閲覧可能なので、適切なアドバイスが可能になる。

学生は就職カルテにリアルタイムで自己の就職活動状況を記録する。就職課担当職員や教員は、学生が入力した就職活動の過程や結果を確認することができる。就職カルテに入力されたデータは就職カルテに入力されたデータを逐次、閲覧することが可能である。活動プロセスの可視化によって、就職課担当職員や教員は、学生の就職活動のおおよその行動履歴を把握でき、より適切な形で学生へのアドバイスやコーチングが可能となる。

以上のように、jwestは行動履歴の確認を可能にすることで、学生と教員間、学生と就職課担当職員間、そして教員と就職課担当職員間のコミュニケーションを円滑にするツールとしての特徴を持つことが明らかである。

むすびにかえて

本稿では、事例として城西大学経営学部のデータから学生の就職状況の現状と就職活動支援の問題点を明らかにし、就職活動支援を行うためのツールとしてのjwestの開発・運用について報告し、他大学の取り組みと比較してどのような特徴があるのかを検証した。

近年、大学生を取り巻く就職活動の状況は厳しさを増す一方である。また、就職活動は早期化、長期化する傾向も帯びてきている。jwestは、学生が自己の置かれた状況をリアルタイムで記録し、教員あるいは就職課の職員が学生の大学での活動や就職活動の状況に関する情報を共有することで、学生が円滑な就職活動を行うことを支援するためのツールとして開発された。

就職活動の第一歩がうまく踏み出せないまたは活動そのものがうまくいかずに就職活動を断念してしまい結果として「就職せず」、「アルバイト」、「家事手伝い」を選んでしまう学生が少なからず出てくる。「就職せず」、「アルバイト」、「家事手伝い」は、卒業後のキャリア形成にも不利

に働くことは明らかである。学生の就職活動の様子が可視化されることで、就職活動の第一歩がうまく踏み出せていない、活動そのものがうまくいわずに就職活動を断念してしまっている消極的な学生に対しての働きかけやきめ細かな指導が可能となり、学生が就職活動を再開するきっかけになるかもしれない。

最後に、jwest のシステムとプロジェクトの課題としては以下のことがあげられよう。

第1に、学生たちが記録した就職活動の行動履歴はデータとして蓄積が期待できる。現在までのところ、jwest は運用を開始したばかりなのでデータの蓄積は少ないし、データ分析の機能を有してはいない。しかしながら、データの蓄積が進み、蓄積されたデータを分析することで、先輩学生が内定を獲得した業種や職種に一定の傾向があることが確認できれば、それらのデータの傾向を後輩の学生にフィードバックすることも可能になるかもしれない。

第2に、平成23年度には、経営学部での運用実績をもとに城西大学の全学部でjwest の利用を広げていく予定である。城西大学には文系学部と理系学部、短期大学があり、就職支援の方法や内容は異なる。そのため、学内の運用体制をいかにして整備していくかがプロジェクトの課題としてあげられる。

〈注〉

- (1) jwest とは、城西キャリアウェブステーション (josai career web station) の略称で、三位一体型キャリアウェブステーションのことを指している。
- (2) 配当年次は、1年次が基礎ゼミⅠ、2年次が基礎ゼミⅡ、3・4年次がゼミナールⅠ・Ⅱとなっている。

参考文献

- 岡田定、大島禎、田添司 (1996) 「就職指導支援システムをめぐる諸問題 — 摂南大学の事例に基づく考察 —」『経営情報研究』Vol. 3, No. 2。
- 川瀬隆千、辻利則、竹野茂、田中宏明 (2006) 「本学キャリア教育プログラムが学生の自己効力感に及ぼす効果」『宮崎公立大学人文学部紀要』第13巻、第1号。
- 小島貴子 (2006) 『就職迷子の若者たち』集英社新書。
- 本庄麻美子 (2009) 「上級生による下級生への進路・就職支援活動『和歌山大学経済学部スチューデントリンク』の現状と課題」『経済理論』第352号。
- 森本雅博、畑耕治郎 (2004) 「WBT 型学習支援システムの実現と形成的評価 — 就職活動支援を目的とした —」『人文科学部論集』第5号。
- 安田雪 (1999) 『大学生の就職活動』中公新書。

参考資料

- 木内正光 (2010) 「情報の共有化を目指したJUキャリア支援ウェブステーション (jwest) の開発」『第14回 商品開発・管理学会 講演・論文集』商品開発・管理学会、58-62ページ。
- 栗田るみ子 (2010) 「三位一体型キャリア支援ウェブステーション『jwest』の開発へ向けて」『平成22

年度教育改革 ICT 戦略大会予稿集』社団法人私立大学情報教育協会，204-205 ページ。

「就職難に立ち向かう優秀な学生を育成中 ― 県内大学の取り組みは、今 ―」埼玉新聞，2010 年 12 月 24 日。

城西大学・城西短期大学就職課『2011 就職のしおり』

厚生労働省ホームページ (<http://www.mhlw.go.jp>)

城西大学就職課ホームページ (<http://www.josai.ac.jp/career/>)

Innovation of Job Hunting Support System for Students

— A case of jwest (josai career web station) —

Masakazu Yanagishita, Motoo Kusano, Asahiro Arai,
Rumiko Kurita and Masamitsu Kiuchi

Abstract

In 2010, the faculty of business administration at Josai University launched job hunting support system. Job hunting support system named jwest (josai career web station) was developed for students who look for a job.

This paper explains the employment rate data of students belonging to the faculty of business administration and the problem of job hunting support. Students are able to access jwest by PC or cell phone, and make a record of their job hunting process. Professors and career advisers are visible job hunting process real time. Therefore, they can make use of advice and coaching for hunting job of students. And this paper clarifies the characteristics of jwest and problems to be solved.

Keywords: Job hunting support, real time, jwest (josai career web station), visible job hunting process, resume of job hunting